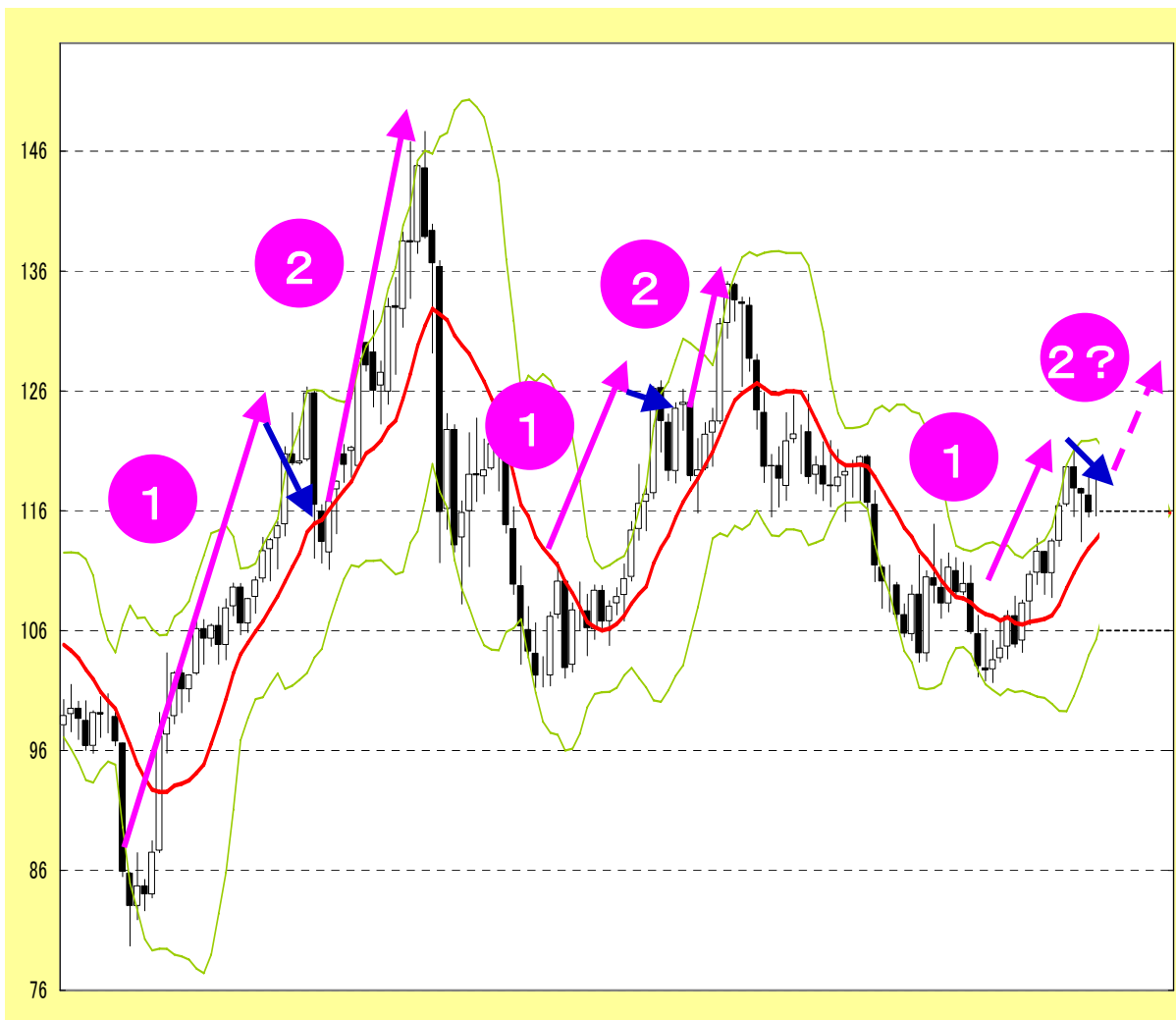


2006年ドル／円見通し(3/19) 2度目の上昇波動で春以降、ドル上昇



コメント

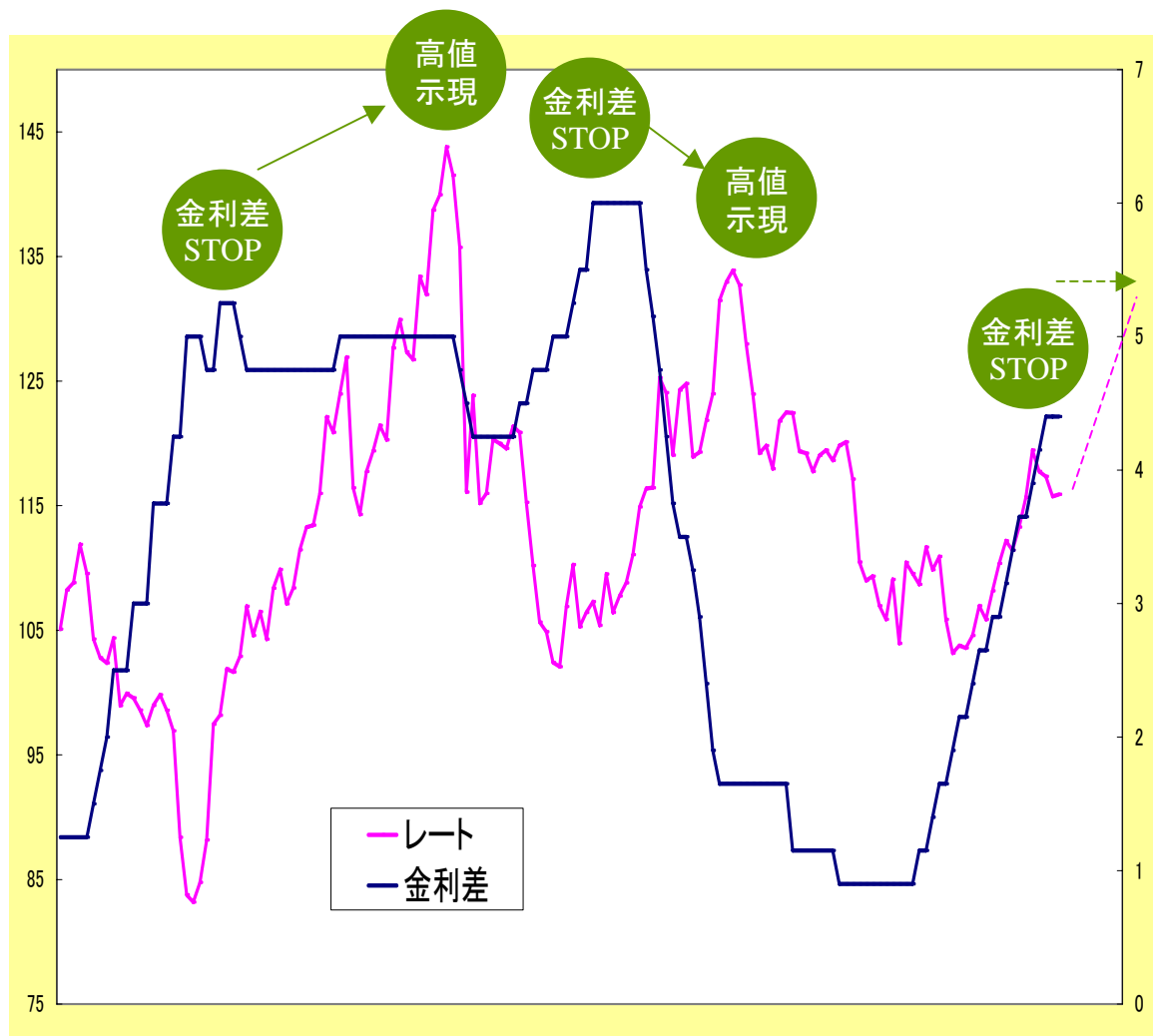
テクニカル＝直近10年間のドル円相場を見ると、上昇局面は3度ある。2005年1月からのドル高トレンドは3度目。過去2度は、いずれも2度の上昇波動が観測される。つまり、1度上昇>調整>2度目の上昇。

今回も同じような波動になると考えれば、2005年12月からのドル下落は調整局面。春以降、2度目の上昇局面が訪れる可能性は低くない。

また、3月19日時点のローソク足はまだ12ヶ月移動平均線(113.62円)を上回っており、長期的には上昇トレンド。さらに、ボリンジャーバンドの下値は切り上がってきており、調整後にドルが上昇するかたちとして悪くない。

ファンダメンタルズ＝次ページで説明。

2006年ドル／円見通し(3/19) 金利差拡大STOPの後、ドル高値示現



コメント

ファンダメンタルズ＝ファンダメンタルズの対象も無数にあるが、ここでは注目度が高い「政策金利」で相場分析をした。直近10年間、ドル円の金利差が拡大したことは3度ある。2004年6月からの米利上げによる金利差拡大は3度目。過去2度は、金利差拡大がSTOPした時点から、約1年後を目処にドルは高値を示現している。2006年中には米利上げ休止、本邦でも利上げが予想されている。今回も金利差拡大がSTOPした後にドル円は高値を示現すると考えれば、2006年以降もドル高が継続しそうだ。

テクニカル＝前ページで説明。